

## 会 議 要 録

会 議 名		令和３年度 第３回 小平市青少年問題協議会
日 時		令和４年１月２６日（水）午後１時３０分～午後３時００分
場 所		小平市中央公民館 講座室２
出席者 等	委 員	１１名（欠席者６名）
	事務局	子ども家庭部長、教育指導担当部長、家庭支援担当課長、地域学習支援課長、生活支援課長、子育て支援課子ども・若者支援担当係長
傍 聴 人		０名
会議 内容	１ 開会 ２ 議 事 意見交換「青少年とインターネットについて」 ３ 情報提供 ４ その他 ５ 閉 会	
配付 資料	会議次第・席次表 ひまわり 第４２号（令和３年度）「社会を明るくする運動」作文集 ひらく - 未来をひらく、心をひらく - 若者応援ガイドブック 令和３年度版 こだいら子育てガイド	

### ○ 会議内容等についての意見・質疑応答

#### ２ 議事

##### 意見交換「青少年とインターネットについて」

事務局	<p>それでは、今回の意見交換の目的とテーマについて、事前に文書にて周知しているが、改めて説明する。</p> <p>青少年問題協議会では、毎年度、子ども・若者に関する主な事業の概要や、子ども・若者計画の推進状況について説明し、各委員から意見を伺っているが、今回新たな試みとして、昨今の青少年をめぐる課題について、委員同士で意見交換を行ってもらうこととした。</p> <p>本協議会には、学識経験者をはじめ、青少年分野への高い関心や 豊富な知識・経験を持つ方々、また、若者自身に参加してもらっていることから、様々な角度から貴重な意見をいただき、今後の市の青少年施策推進の参考にさせてもらうとともに、あわせて 委員ご自身の活動の一助にもしてもらえればと考えている。</p> <p>次に、テーマである「青少年とインターネットについて」だが、東京都の調査によると、中・高生のスマートフォンの所有率は年々上昇し、令和２年度では、中学生が約８０％、高校生が９５％を超え、若者にとってインターネットが非常に身近な存在となっている。</p> <p>ネットについては、時間や距離を気にすることなく、情報収集や情報発信を容易に行うことができ、特にコロナ禍において、オンライン授業として活</p>
-----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>用され、イベントやゲームなどの交流が進む、若者が気軽に相談できる SNS 相談など、多くの恩恵を与えてくれるものであり、今後もさらなる可能性が期待される。</p> <p>一方で、ネットがコミュニケーション手段にもなり、長時間利用による健康面への影響や依存症も懸念されている。また、ネットによるトラブルや犯罪、LINE でのいじめなど深刻な問題も発生している。</p> <p>以上のように、インターネットには様々なメリット・デメリットがあるので、この意見交換で 結論や方向性を出していただくものではない。普段考えていることや思いついたことを自由に述べてもらいたい。</p>
委員	<p>青少年にとってインターネットは、メリットとデメリットがあると考えた。</p> <p>まずメリットとして、出会いの場が広がった。距離が遠いため物理的に出会えない人と、SNS を通じて出会えるようになった。</p> <p>また、オンラインでの講座や授業の普及により、参加する行程が手間に感じていた講座や授業に気軽に参加できるようになった。</p> <p>そして、情報をすぐにスマートフォンなどで調べて得られるようになった。</p> <p>対してデメリットとして、普及したオンライン授業などにおいて、顔を出す人と、出さない人がある。顔を出さない人の中にも 2 パターンあって、背景に家の中のプライベートな空間が映るため顔を出さない人と、ただ単に顔を映されたくない、若しくは、授業の間に他のことがやりたくて顔を出さない人がある。発言をする先生や他の生徒にとってみれば、顔を出さない生徒の表情や空気感を捉えることができないので、自分の意図が本当に相手に伝わっているのかわからなくなってしまった。</p> <p>また、顔を出すと発言とともに動画に残るが、その発言の一部分だけを切り取られ、自分の意図とは異なる趣旨で捉えられてしまうことがある。それが不安で思っていることを発言できず、授業の議論が本当の意味で深まらなくなってしまう。</p> <p>それから、長時間画面を見続けることによって、目が悪くなる。また、画面を通しての授業は集中しづらいと感じた。</p> <p>先ほど会議前に、本日配られた「ひまわり」を読んでいて、なるほどと思ったことがあった。29 頁に「インターネットと人との関わり方」という作文があるが、この作文を書かれた方は、部屋ですべてスマートフォンを使用していると言っており、同じような若者は多いと思う。私の友人から、家族とコミュニケーションをとるのに LINE を使っていると初めて聞いたときに、とても驚いた。家族は一番コミュニケーションをとりやすい存在であり、さらに、コロナ禍だと他人とふれ合う機会もあまりないので、家族とのコミュニケーションがより大切だと思っているが、スマートフォンをお互いに持っていることによって、LINE などを使って顔を見ないでコミュニケーションがとれるようになってしまった。</p>
委員	<p>私の孫に大学 2 年生がいるが、大学の授業がオンラインになって、友達づくりという意味では大変であろうと感じている。クラブにも所属しているが、活動がほとんどできていない。そういった状況を見ると、やはり辛いんだろうなと思った。大学 1 年生の頃は 3 回しか大学に行っていない。その間はアルバイトをやっていた。</p> <p>そういった学生たちがどれだけ習熟度を深めて卒業していけるかが心配である。オンラインは規制が弱い。やろうと思えばパジャマ姿でも参加できるため、授業に取り組む姿勢も学生次第である。先生も、生徒と話をし意見聞きながら進める方もいれば、すべてを板書して授業をする方もいて、生徒との交流が非常に弱くなっている。それが学生にどう影響するのか懸念している。</p> <p>高齢者からすると、昔はなかったインターネットというものを、非常に苦</p>

	<p>労しながら利用している。私自身もオンラインでの会議に出席せざるを得ない場面はあるが、画面の前に何時間も座り続けるのは苦痛である。先ほど意見のあった目が悪くなるというデメリットも確かであり、ブルーライトによる影響も心配しながら利用している。</p>
委員	<p>私の会社はテレワークを実施しており、私自身2年ほど出社していない。対面で顔を合わせることが全然ないため、コミュニケーション面で自分の意見を伝えるのが難しいと感じている。対面でない分、パワーポイントなどの資料を今まで以上に細かく作って、相手に理解してもらわなければならなくなり、余計に仕事が増えたことがあった。仕事上、システムの仕様についてベンダーと打ち合わせることがあるが、オンラインだとお互いの意思が伝わりづらいという苦労があり、顔を合わせて話せばその場ですぐに解決するものも、余計に時間がかかってしまうというデメリットは感じている。</p> <p>一方メリットとしては、勤務先への通勤時間の短縮がある。私の勤務先は片道2時間かかる場所だが、移動にかかる時間が一切なくなるので、その分時間を有意義に使える。中には、通勤時間を勉強に充てるなど有意義に使えばいいという意見もあるが、実際は疲れ切って眠ってしまい難しいため、通勤時間がなくなるのはメリットだと思う。</p> <p>インターネットが発達していなかった時代は、情報をすぐに調べられなかったが、今は自分がわからない単語が出てくるとすぐに調べられるため、とても便利になった。その反面、簡単に調べられるということは、自分の頭で覚えることをしなくなるので、記憶力が低下しているように感じている。</p> <p>また、長時間パソコンの画面を見ていると目が疲れるため、その対策として、眼鏡はブルーライトをカットするレンズを使い、パソコンやスマートフォンの液晶保護フィルムはブルーライトをカットするものを使っている。</p> <p>先ほども意見があったが、学生は友達づくりが大変だと思う。私の会社でも、コロナ禍以降は新入社員も一切会社に出社しないので、同じ部署でも新入社員の顔を知らない状況になってしまっている。新入社員にとっても同様の状況であるため、これで大丈夫なのかと不安に思っている面もあると思う。</p>
委員	<p>昨年の3月まで大学の図書館で勤務していたが、コロナ禍の真っ只中に、業務を通じて、インターネットがあつて良かったなと思った。大学の図書館では郵送貸出をしており、インターネットで学生が本を予約して、職員がその本を書庫へ探しに行き、消毒して郵送するという業務を大量に行う。職員は大変だが、学生にとってみれば、コロナ禍でもインターネットがあることで本を借りることができて良かったのではないかな。</p> <p>また、オンライン授業は、学校にとってもメリットがあつたのではないかな。休校になったときに、子どもたちの授業を遅らせるわけにはいけないので、オンライン授業ができて良かったと思う。</p> <p>今は就職活動にしても、会社からの必要な情報はすべてインターネットを介して送られてくるため、インターネットが使えないと面接も受けられない状況である。そのため、若者たちがインターネットのスキルを身に付け、また、インターネットの良し悪しを理解した上で、使いこなしていく訓練を中高生の頃からしていってもらえれば、とても便利なものになるのではないかなと思う。</p> <p>人と人が出会って、話し合ったり生の声を聞いたりするということは、人間である以上とても大事なことであるが、インターネットを生きる上での一つのツールとして捉えてもらえれば良いのではないかなと思う。</p>
委員	<p>今やインターネットは、仕事にも生活にも欠かせないツールとなっており、もはやなくては生活できないレベルになっている。そのため、気をつけるべきことをしっかりとおさえた上で、便利で楽しくインターネットを活用する</p>

	<p>のが理想的だと思っている。</p> <p>スマートフォンの利用制限や、ゲームの時間制限など、悪影響を及ぼしかねないものへの制限を加えたいと思う場面もあるかと思うが、そういったものの利用を制限するというのはなかなか難しい。時間を制限したからといって回避できない問題もあるのではないかと。そのため、子どもたちのコミュニケーション能力そのものを支援していかないと、インターネットの活用というのはうまくいかないのではないと思う。</p> <p>情報リテラシーという言葉もあるが、インターネットから大量に流れてくる情報を、どうやって使って、自分に必要なものを取り出して、分析して活用するか、といった知識や技能の習得が重要になってくるのではないかと。大人にとっても習得するのは難しい技能だと思うが、そういった知識や技能を高めることによって、いろいろ挙げられているデメリットを防ぐことができる流れになっていけば良いと思っている。</p> <p>IT人材の育成などの課題も挙がっており、小さい頃からそういった知識や技能を身に付けた人材が育成されることで、より良い社会になっていくと言われてはいるが、スマートフォンにしても、デメリットを認識した上で使いこなしていくことが必要だと思う。</p> <p>また、先ほどの意見で、コミュニケーションの点でうまくいかないといったデメリットが挙げられたが、その不足するコミュニケーション自体をどうやって向上していったら良いかは答えがわからない。スマートフォンはとても便利で、必要な情報を必要なときに得ることができるし、コミュニケーションも高まる部分もある。良いところはとても良いが、そういったデメリットを補完する別の仕組みをこれから考えていかなければならないと思う。</p>
委員	<p>今は小中学校でもインターネットで授業を行うようになっているが、情報リテラシーやメディアリテラシーについては大学にならないと学ばない。小中学校でも、もっと簡単な内容にして、SNSを使ったらどうなるのかなど、インターネットを使う上での注意点をわかりやすく説明するような授業を取り入れてはどうかと思っている。</p> <p>また、そういったリテラシーを身に付けていない若者が簡単にスマートフォンを手に入れて、自分の個人情報が流出していることに気付かず使っている方も多くいて、それが犯罪につながってしまうケースもある。海外ではインターネットの利用について年齢制限を設けている国もあると聞いたことがあるので、日本も検討していくようにしてほしいと思う。</p> <p>せっかく便利なものなので、有効に使える対策を考えていければいいと思う。私自身もあまりインターネットの利用については得意ではなく、気を付けながら利用しているが、気を付けなければいけないという怖さを若者にわかしてもらいたい。</p>
委員	<p>今はスマートフォンやタブレットが身近な存在になっていて、それをうまく使える方はいいが、一つ間違えると、犯罪やいじめなどの問題につながっていくと思う。小中学校ではインターネットの授業を年1回程度行っているが、継続的に実施していくようにしていければいいと思う。知識のない子どもたちの土台のところで、学年に合ったわかりやすいレベルで、インターネットのメリット・デメリットを教えるような教育をしていくと、すんなりリテラシーを身に付けていけるのではないと思う。</p> <p>今の親世代は、子どものときにインターネット社会に入り込んでいた方たちもいて、親子が一緒に家でゲームをしているような話も時々聞く。そういったときに、大人も子どもと一緒にインターネットについて考えていく必要があるのではないと思う。</p> <p>アップル社の創業者スティーブ・ジョブズも、自分の子どもにはiPadの使用を制限して、読書や会話の時間を増やすようにしていたという話もある。</p>

	<p>コミュニケーションがいかに大事なのかということを若者や保護者世代に伝えていけるといい。</p> <p>私もオンラインで会議をすることがあるが、伝えたいことが伝えづらかったり、話の温度が伝わらなかったりするため、相手の顔を見ながらのコミュニケーションは大切である。</p>
委員	<p>私は今まさにインターネットがあるからオンラインで会議に参加できている。インターネットは生活していく上でなくてはならないものになっているので、使い方を考えていくことが大事である。学校など学ぶ場所があるのであれば、継続的に学ぶ機会を作って、有効な使い方を小さい頃から分かりやすく伝えていくことが必要だと思う。小さい頃から、スマートフォンなどに触れる時間を決めることを習慣にしていくことで、自然と身に付いていくのではないかと思う。</p> <p>今の子ども達は、朝起きてから寝る直前までスマートフォンを握っている子が多いと思う。情報は手軽に入って便利だが、その情報が全て正しくて真実なのかどうかを子どもが判断するのは難しいので、困ったら相談できるような場所があるのも大事かと思う。</p> <p>大人もスマートフォンから情報を得ることが多いと思うが、自分と違う意見の相手からたたかれると、大人でも心が折れてしまうことがあるので、子どもはなおさらそうだと思う。その意見が全てではないと子ども自身が判断できないときに、それを見守れるような場所や機会が増えることが、子どもたちを守っていく一つのきっかけになると感じた。</p>
委員	<p>中高生のスマートフォンの所持率に関して、当方の児童養護施設の高校生もスマートフォンを持っている子は多い。これまでは自分でアルバイトをして稼いだお金と、施設からの小遣いとを合わせてスマートフォン代に充て、自分で契約をして使っていたが、世の中がスマートフォンを持っている子がほとんどという状況で、自分の力でスマートフォンを持つというのはだいぶハードルが高い。中学生となるとアルバイトもできないのでさらに難しい。そう考えたときに、施設にいるからスマートフォンを使えないというのは違うのではないかと結論に至った。施設内でも話し合いを重ね、希望する子には、必要な手続きを取った上で、施設からスマートフォンを貸し出して使わせることができるよう、現在準備している。準備にあたっては、子どもたちにも個別に話をしながら、大人もインターネットを使うことについていろいろ学んだ。</p> <p>実際にスマートフォンを持つことになったときに、先ほどから話が出ているようなメリットとデメリットに直面する。想定されるトラブルに対して、一概に制限してしまうことは簡単だが、いろいろなことを学ばないうちに大人になってしまうことになるので、施設にいて大人がサポートできる間に、施設が貸し出したスマートフォンを利用し、経験を通して学んでもらいたい。</p> <p>スマートフォンを貸し出すにあたって、対象は基本的には希望する中高生で、保護者や児童相談所に許可を取るが、使うにあたってどういった約束事を作るかということも大事である。その約束事を守れなければ一旦預かるなどの対応も含めて貸し出すことを考えている。</p> <p>大人も学ぶための具体的な資料を探し、実際に参考にしたのは、漫画形式になっていて、登場人物も中高生で実際にあるようなインターネットのトラブルなどが紹介されている本である。これを読みながら、子どもと大人、あるいは大人同士で話し合っていて考えていった。こういった本を活用し、学校などで定期的に学べる機会を子ども達に与えることが大事であると思う。</p>
委員	<p>青少年リーダー養成講座で中高生向けに宿泊を伴う講座をやると、7、8年前は参加者が携帯電話を持ってきて、夜中までずっと使用し他の参加者の</p>

	<p>迷惑になるような行動をとる子がいた。講座の中でもしっかりと決まりを作っておかないと、中高生でもこのような状態になるということがわかり、私たち自身も反省した。決まりを作るにあたっても、子どもと相談しながら、時間を制限したりふり返りをしたりしながら、ようやく定着してきたと実感している。</p> <p>このコロナ禍の２年間は、対面での講座はできなくなったが、その代わりに Zoom でのオンライン講座を何度か実施している。私たち自身も慣れない中で当初は、講座の途中にブレイクアウトルームを活用し少人数のグループに分かれて活動したり、その後にまた全体で集まったりするやり方を参加者に詳しく説明していたが、先日行った講座では、細かい説明をしなくても参加者が自ら動いてくれて、スムーズに講座を開催することができた。また、シニアの子どもたちがレクリエーションを考えてくれたが、その内容が「チャットを使ったタイピング対決」という大人では思いつかないようなものだった。小学校５年生から高校生まで参加しているので、子どもたちの間でもチャットの扱いに差が出るかと思ったが、実際にやってみると、どの子どもたちもすぐに理解して楽しめていた。今の子どもたちはオンライン講座でもすぐに順応できる状況なのだと感じている。</p> <p>先ほどから話が出ているが、インターネットの利用については、決まりをきちんと作り、小学校のうちから犯罪に巻き込まれないような教育に取り組んでいかなければならないと感じている。</p> <p>小中学校では、保護者向けのセーフティ教室が行われているが、聞いてもらいたい家庭ほど忙しくて参加できない現状もあり、参加者は少ない。いろいろな犯罪やいじめが起きる背景には、身近な大人や、インターネットで繋がる大人が絡んで起きることが多いと思うので、私たち大人もいろいろなことを子どもと同じように知っていかなければいけないと感じている。</p>
委員	<p>先ほど紹介された「ひまわり」の作文にあるとおり、今の子ども達の中にも、インターネットについてしっかりと考えている子どももいる。</p> <p>インターネットの中の情報は、現実と仮想、あるいは真実と嘘があることをしっかりと認識していかなければならない。SNSでたたかれて、自殺にまで追い込まれた方が現実にいる。それほどの凶器にもなるという現実を知ってほしい。</p> <p>また、出会い系のSNSで、インターネット上での雰囲気や写真だけで会ってしまい、そこからDVに及んでしまう事例もある。</p> <p>これらのインターネットの問題は、避けて通れないものである。これを大人がどうコントロールしていくのかということは、本日のこのような会議などで意見を交わしたり情報を共有したりしながら、地域や家庭に伝えていかなければならない。</p> <p>社会的包摂サポートセンターの「DV・性暴力被害者を支えるための はじめてのSNS相談」といった本の内容を、中学生の頃からしっかりと知っておいてほしいと思う。インターネットの仮想空間では、写真や年齢を偽っている大人も多くおり、いとも簡単にそういった大人と繋がってしまうので非常に厄介であり、中には殺人事件に至るものも現実にあった。私たちはこの問題を重いテーマと捉えて、学校の授業で教えていけるカリキュラムが作られ、また、子どもだけではなく家庭の中の一人一人が問題意識を持てるようになれると良い。</p>
委員	<p>私はこのテーマについて考えたときに、デメリットを多く思いついたが、他の委員の意見から、インターネットを生きるツールとして捉えたり、みんなと相談して正しい使い方をするための方法を考えたりして、良いものとして活用できる方向へ持っていけばいいと思った。</p> <p>先ほどインターネット上のいじめについての話が出てきたが、LINE で仲間</p>

	<p>外れにされたり、Twitter で誹謗中傷されたりするような身近なインターネット上でのいじめもあるが、嫌なことがあったときに顔を見て話せない人間関係が社会でもできてしまっていると思う。先日、制服の規定のない高校に私服で通っている友人が通学中に公園を通った際に、知らない人に写真で撮られ、「若者が公園で遊んでいる」とインターネット上に書かれ、標的にされてしまったことがあった。こういった問題も考えていかなければいけないと思う。</p>
委員	<p>インターネットは非常に便利で、コミュニケーションをとることもできるし、ゲームを通じて友達の輪が広がるような利点もあるが、その反面、匿名で何でも誹謗中傷ができてしまう仮想現実があると思う。現実社会と同等の責任を持って、書き込んだり発言をしたりする意識が必要だが、インターネット利用者の間ではまだ意識されていないのが残念である。匿名性をうまく利用して相手を攻撃することは、犯罪にも繋がりがねない事件に発展する可能性がある。現実と対面して、堂々とその言葉が言えるのかを確認してから発信することが大切なのだと思う。</p> <p>これからインターネットを使い始める子どもたちを守るためには、対面でのコミュニケーションをとりつつ対応していく必要がある。子どもが事件に巻き込まれそうなどときには何らかのサインを出すはずであるため、トラブルの防止のためには、そのサインを見逃さないよう子どもとのコミュニケーションをしっかりと、相談しやすい信頼関係を作っていくことが必要だと思う。</p>
会長	<p>オンライン授業は、新型コロナウイルスがまん延し、対面の授業ができなくなったために、何か活路はないかということで進められたという現状がある。長期的なことを考えれば、コロナ禍に関わらずオンライン授業というのは取り入れられてくるものであったと思う。世界中の誰もが、各々違った場所から参加することも可能になる。ただ今回は、新型コロナウイルスの発生によって半ば無理矢理オンライン授業を取り入れることになったために、いろいろなデメリットが出ている。オンライン授業を当たり前にしていくためには、今回挙げられたようなデメリットを解消していく必要があると思う。</p> <p>コロナ禍で入学してきた学生は、入学式もできなかった。授業もできず、オンラインでつなげようと思ってもメールアドレスさえわからず、大変苦労した。しかしその後、オンライン上で生徒全員の顔が映ったときは感動した。新入生同士も、友人の顔すらわからない状況であった訳だからお互い感動したと思う。その後も、オンライン授業を実施していく上でたくさんの課題があったが、先生と学生がそれぞれにどういうやり方がいいのかを考え、淘汰されてきている。オンライン授業は将来的にとっても素晴らしい可能性を持っている。空間を飛び越えることができるし、YouTube を利用してのオンデマンド配信であれば、自分の好きな時間に繰り返し見ることができる。</p> <p>インターネットが素晴らしいテクノロジーであるということは、各委員の意見にもあったとおりだが、インターネットとの付き合い方を知っていく必要があるなどの課題もある。青少年に対して、どこでそれを教えてあげることができるのかと考えたときに、学校や青少年対象の講座などが挙げられた。学校の話になるが、大学では、文部科学省から新しい授業として「情報」の内容が付加され、情報教育というものが出てきた。中学校、高校では、「情報」という科目があるため、その内容を足していくことは可能である。しかし、小学校には「情報」という科目はないため、小学校で教えればいいと言って簡単にできるものではない。決められた授業をしなければならぬ中で、先生方が工夫して指導しているのだと思う。小さいうちからインターネットとの付き合い方をしっかりと教えていって、その知識が身に付いている青少年がたくさんいる社会になればいいと思う。</p>

	<p>デジタルタトゥーの問題もある。SNSがなかった頃のいじめは、例えば授業中に紙に悪口を書いて他の生徒に渡すなどしていたので、いじめの情報は一部の生徒のみで共有するものだったが、今はSNSを使って悪口を発信することで、全然知らない子にまで情報が回ってしまう。情報が拡散すると取り返しがつかなくなってしまうので、子ども達だけで対応できる問題ではない。</p> <p>また、オンライン授業を行うにあたって、経済的に苦しくてスマートフォンが持てない、あるいは、Wi-Fi 環境がないなどの理由でデバイスが用意できない学生もあり、大きな問題であると感じた。小中学校と公立高校にはタブレットが配布されたが、私立高校や大学は家庭で負担して用意してもらう必要がある。私の大学では、デバイスが用意できない学生に対して無料でノートパソコンを貸し出して対応したが、これは社会全体の問題として解決していく必要があると感じた。</p> <p>本日、委員から様々な意見をいただいた。これをもってまとめとしたい。</p>
委員	<p>最後にひとつ、オンラインゲームは、施設の子供達の中では日常的にあり、友達同士だけではなく、全然知らない人とオンラインでつながってゲームをしている。私もたまに子どもたちとオンラインゲームをすると、子どもたちがいろいろなことを教えてくれる。ゲームを通じて、子どもが今どのような世界で生きているのかを知ることができるのは大事であるし、また、ゲームと一緒に遊ぶことによって子どもとの関係性ができた後には、アナログなボードゲームや外遊びなどの別の遊びに誘うと乗ってくれるようになる。</p>

### 3 情報提供

委員	<p>昨年度の民生委員・児童委員協議会の地区連絡協議会において、「ネットゲーム依存の理解と対応」をテーマに勉強会をした。ネットゲームに依存する中で、子どもはお金を使っている感覚がないまま課金をして、親にその支払いが来て問題になることが多いが、お金がかかっているということを子どもに知らせていかなければならないという話が講師からあった。また、子どものネット依存で困っている親に寄り添う態度や姿勢も大事であるという話もあった。</p>
委員	<p>「社会を明るくする運動」は、すべての国民が犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場で力を合わせて、犯罪や非行のない明るい地域社会を築いていこうとする全国的な運動であり、小平市では20団体が活動を行っている。</p> <p>その活動の一つである「ひまわり」は、市内の中学校2年生から作文をいただいて冊子にまとめたものである。今年度で第42号になるが、第1号に作文が掲載された当時の中学校2年生の中には、現在は教員となり子どもたちに教える側に立っている方もいる。その方の作文を今読み返すと、しっかりした文章を書いており、この作文が後に活きていると感じた。第42号に作文が掲載されている子どもたちがどのように成長し、社会に貢献していつてくれるのか、とても楽しみにしている。</p>